

インフルエンザ予防接種のお知らせ

1. インフルエンザとは

インフルエンザの流行は、通常、初冬から春先にみられます。

インフルエンザの典型的な症状は、突然のかぜにくらべて、全身症状が強いのが特徴です。気管支炎や肺炎を合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。

2. インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザ予防接種の有効性は世界的にも認められています。

予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、効果が持続する期間は約5ヶ月といわれていますので、接種を希望する方は、インフルエンザが流行する前の12月中旬頃までの接種が適当とされています。

また、インフルエンザウイルスは毎年変化しながら流行するため、予防接種は毎年受けることが効果的です。

3. インフルエンザの予防

感染予防のためには、予防接種のほかに、手洗い・うがいをしっかりとすることも大切です。咳、くしゃみの飛沫の中にはウイルスがたくさん含まれていますので、周囲の人への感染を防ぐためにも「咳エチケット※」は感染防止の上で大切です。

また、インフルエンザが流行しているときには、必要のない外出（特に人が多く集まる場所）を控えましょう。

※ 咳エチケットとは.

咳やくしゃみがでたらマスクをつけ、マスクを持っていない場合に咳やくしゃみがでそうな時は、顔をそむけてティッシュなどで口や鼻をおおい、周りの人に感染させないように心がけることです。

4. 予防接種を受ける前に

● 一般注意

予防接種についてわからないことは、接種前に医師や看護師にお尋ねください。
予診票は、予防接種の可否を決める大切な情報ですので、接種を受ける方が責任をもって記入してください。

● 予防接種を受けることができない方

- (1) 37.5℃以上の熱がある方
- (2) 重い急性疾患にかかっている方
- (3) インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーショックを起こしたことが明らかな方
- (4) 予防接種後2日以内に発熱のみられた方
- (5) 予防接種後に全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- (6) その他、医師が不適当な状態と判断した方

● 予防接種を受ける前に、担当医師とよく相談しなくてはならない方

- (1) 心臓、じん臓、呼吸器の機能に自己の身の辺の日常生活が極度に制限される程度の障がいがある方
- (2) HIVウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障がいがある方

● 予防接種を受けた後の注意

- (1) インフルエンザワクチン接種後24時間は副反応の出現に注意し、観察しておく必要があります。特に、接種後30分以内は健康状態の変化に注意してください。
- (2) 入浴は、接種後1時間以上経過してから行うようにしてください。
- (3) 過激な運動、大量の飲酒は、それ自体で体調の変化をきたす恐れがあるので、接種後24時間は避けてください。

5. インフルエンザの予防接種の副反応

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、他の病気がたまたま重なることもあります。

予防接種の注射のあとが、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだり、また、わずかながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさ等が見られることもありますが、通常2～3日中に治ります。

接種後、これらの症状が強く現れた場合は、接種した医師にご相談ください。